

朝鮮半島、東アジアにおけるパンデミック2年目以降の国際情勢について

2021.10.13.～14.

董 龍 昇(トン・ヨンスン)
Good Farmers 事務局長

目次

パンデミック2年目に生じた現象

パンデミックと朝鮮半島

パンデミックと東アジア

パンデミック2年目に生じた現象

- 不確実性からの脱出
 - 「ウィズコロナ」の一般化
 - 迅速なワクチン開発およびFDA承認、新型コロナウイルス感染症に対する不安感の緩和
 - 南北問題の発生
 - 各国別ワクチン確保能力の格差および供給優先順位の差
 - (パンデミックによる世界的な)経済不振から抜け出せる能力の差
 - パンデミックを国内政治的に利用する状況など

- 米国主導のグローバル秩序の弱体化および回復
 - トランプ政権 vs バイデン政権
 - 「非正常の正常化」
 - グローバルネットワーク再構築への協力の強化
 - 米中対決の構造的な変化

パンデミックと朝鮮半島(1):パンデミックを利用する北朝鮮

- 2019年12月31日に採択した新たな道「自力更生による正面突破戦」の強化路線を2021年1月の朝鮮労働党第8回大会で再確認
 - 経済自力更生のための国家経済開発5か年計画(2021~2025)
 - 金属および化学工業中心の経済発展を模索
 - 1970年代式自力更生路線の復活
 - 国防科学の発展および兵器システム開発5か年計画(2021~2025):核兵器およびミサイル能力の高度化
 - 寧辺核施設の再稼働
 - 長距離巡航ミサイルの試射
 - 移動式弾道ミサイルの発射など

パンデミックと朝鮮半島(2):パンデミックを利用する北朝鮮

- 国境閉鎖の長期化
 - 北朝鮮－中国関係の断絶継続
 - 新型コロナウイルス感染症の拡散を懸念した 中朝両国の国境閉鎖の継続:8月の物資交流再開の失敗
 - バイデン政権の発足後、中国は北朝鮮の核問題について米国との協力を強調－北朝鮮の不快感の原因
 - パンデミックによる自発的な国境閉鎖を自力更生路線の長期化に利用:外部要因による強制的な国境閉鎖が避けられない状況と自国民に説明している
 - 非常防疫法に基づく処罰強化
 - 市場掌握のための外貨使用の統制:外貨交換証明書の再登場
 - 韓国からの影響の遮断に注力:BTSの音楽視聴に対する厳罰
- 北朝鮮住民の深刻化する生活苦による不満の蓄積を、新型コロナウイルス感染症による不可避性、米国および韓国の対北敵対政策に対応した戦略(金正恩「苦難の行軍を再度選択」)などで宣伝し、住民統制を強化
- 国際社会に対して「瀬戸際戦術」を復活することにより、米国における対北政策の優先順位を高めようとする意図

パンデミックと朝鮮半島(3): 文在寅政権「北朝鮮を引き出す努力」の継続

- 文在寅政権の「平和優先政策」を利用する北朝鮮
 - 文政権が「北朝鮮のスポークスマン」という非難を受けているにもかかわらず、平和優先政策を継続
 - 北朝鮮による南北通信ライン(電話)の連結・閉鎖・連結の動き
 - 文在寅大統領の国連演説: 朝鮮半島終戦宣言を再提案
 - 北朝鮮は文在寅政権の対米影響力に対する疑念を示し、対韓政策に利用する意図を露骨に見せている
 - 金与正の談話: 対韓政策格下げの意味
- 南北公式対話交流は完全に中断
 - ハノイ会談決裂後、文在寅政権に対する不信感の高まり
 - 南北首脳間での親書交換、および非公式なチャンネルの断続に機能
 - 対北朝鮮支援に対する北朝鮮側からの無反応の継続: 駐韓米軍撤収、戦略兵器導入中止の先行を要求

パンデミックと東アジア(1): 本格化する米国の対中封鎖政策

- 米国バイデン政権の発足: 「非正常の正常化」宣言
 - グローバルネットワークの回復
 - トランプ政権: 「中国叩き」ではなく「世界叩き」— 伝統的同盟関係および米国の影響力の弱体化を招く
 - 伝統的同盟関係回復の試み
 - グローバルイシューに対する積極的な関与(地球温暖化、難民問題など)
 - グローバルネットワークを利用した中国封鎖戦略の本格化
 - 中国を狙った新たな安保関係強化: QUAD、Five Eyes、AUKUSなど
 - 英国の東アジア進出(空母クイーン・エリザベスの東アジア巡航)
 - 米国中心のグローバルバリューチェーン(半導体、バッテリー、移動通信など)の再編
 - 過去にソ連などの社会主義圏を狙った封鎖戦略を中国に向けて再現し始めたのは、米国が中国との対決を本格化させることを意味(トウキディデスの罠)

パンデミックと東アジア(2):内なる国力の強化に力を入れる中国

- 習近平政権の長期化への布石:本格的な米中対決に対応
 - パンデミックを利用した中国内部の取り締まり
 - バイデン政権の発足後、中国はグローバルネットワークの回復に伴う実質的な脅威を認識
 - 「双循環戦略」の採択:中国の閉鎖された20億人市場(華僑を含む)を活用
 - 本格的な対米対決に先立ち内部結束に注力(しているように見える)
 - 反共産党勢力の排斥(特に、中国の巨大企業を対象)、共産党の権力一点集中(習近平の長期政権化への試み)
 - 外部勢力が中国の内部結束に対抗して侵入するのを防ぐ
 - パンデミック過程における中国のグローバルな影響力の低下
 - コロナ拡散に対する中国の不適切な対応により中国の道徳性に対する国際的な信用喪失
 - パンデミックによる「一帯一路」プロジェクトへの支障:欧州とアジアをつなぐ新シルクロード構想
 - 習近平の独裁化および(パンデミックによる)住民移動統制の長期化による中国国民の不満蓄積

パンデミックと東アジア(3): 米中間のグローバルネットワークへの支配力を巡る対立

- 米国の一番の強み(core strength) vs 中国の一番の強み
 - 米国の一番の強みは、80%の開かれたグローバルネットワーク支配力
 - グローバルイシューに対する米国の寄与度強化を予想: 地球温暖化、グローバルリスク対応など
 - 国際秩序に反する中国の行動をグローバルリスクとして規定
 - 中国を開かれたグローバルネットワークに引き入れることに注力: 冷戦時代、ソ連を牽制するために中国を活用(1970年代のデタント)し、グローバルネットワークに引き入れさせた事例
 - 中国の一番の強みは、20%の閉鎖された中国ネットワークの結集力
 - 14億人の人口、人口1千万人以上のメガシティ10市近くを保有
 - 東南アジアを中心として全世界に存在する6千万人の華僑ネットワーク
 - 特定分野の技術的優位と果敢な投資など
- 米中対決は、米国の70年余り蓄積されたStockと、中国の急激な発展に伴うFlowの対決であり、最終的に中国は、米国中心の開かれたグローバルネットワークに編入される方向に展開する可能性が高い

パンデミック克服過程を活用した地域協力の強化が必要

- 東アジア地域における日韓協力関係の強化の必要性
 - 地域安保に対する共同対応(リスクマネジメント): 地域共同安保を志向する必要性—中国、北朝鮮を含める努力
 - 北朝鮮の核問題
 - 中国の軍備拡張など
 - グローバルイシューに対するグローバル・ネットワークの中での東アジア協力連携強化
 - 中国および北朝鮮は化石燃料の比重が高いため、「カーボンゼロ」の取り組みに多くの時間が必要
 - 韓国と日本は「カーボンゼロ」の取り組みを主導できる状況
 - 中国と北朝鮮を含む東アジア地球温暖化対応ネットワーク構成の必要性: 代替エネルギー開発など非軍事的協力分野の拡大を通じてグローバルネットワークへの中朝の誘導
 - 中国および北朝鮮の政策によるリスクに備えた共同対応体制の構築
 - 危機は危機だと認識することが重要(Jared Diamond)